

令和3年度学校と地域との連携に関するアンケート調査結果 (県立高等学校、特別支援学校)

この調査は、県教育委員会が取り組んでいる「学校・家庭・地域が連携し社会全体で子どもを育む仕組みづくり」の進捗状況を把握するために、県内の県立高等学校及び特別支援学校を対象に実施したものです。

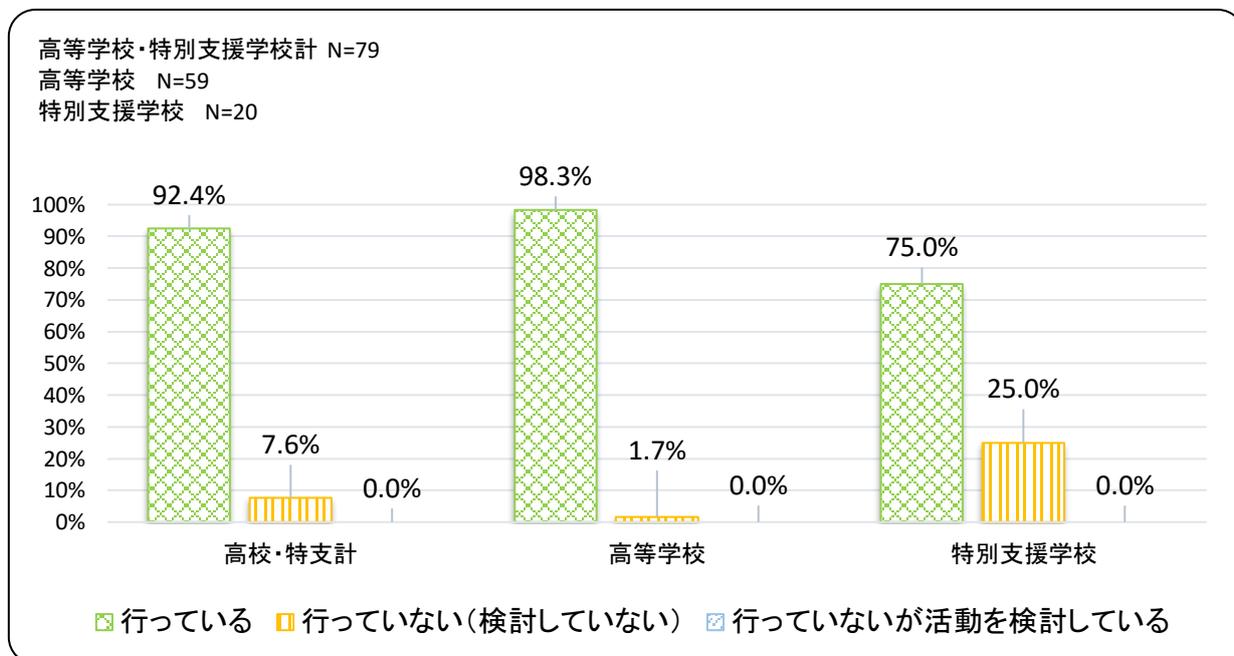
◆回答期間: 令和3年12月23日から令和4年1月31日まで

◆回答率: 100%

- 1 現在、貴校では、地域住民や保護者、地元企業等と連携した活動(以下、地域学校協働活動という。)を行っていますか。

(全校回答)

□地域学校協働活動の実施状況



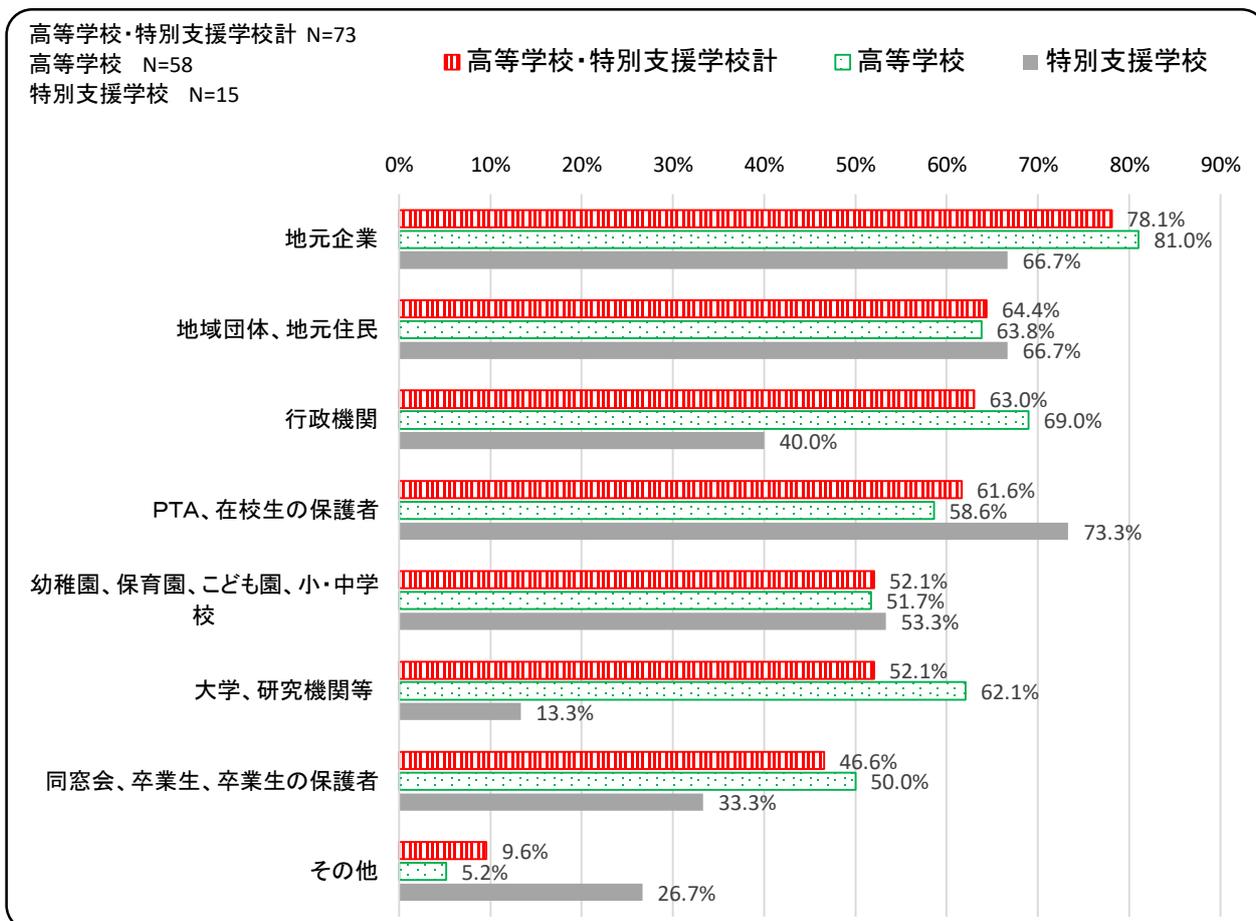
	学校数	行っている		行っていない(検討していない)		行っていないが活動を検討している	
		学校数	割合	学校数	割合	学校数	割合
高等学校	59校	58校	98.3%	1校	1.7%	0校	0.0%
特別支援学校	20校	15校	75.0%	5校	25.0%	0校	0.0%
高校・特支計	79校	73校	92.4%	6校	7.6%	0校	0.0%

2 地域学校協働活動の連携先について、選択してください。

(該当校回答)

□地域学校協働活動の連携先

※複数回答のため、重複あり



「その他」の記載内容

高等学校(計3件) : 近隣の特別支援学校(3件)

特別支援学校(計4件) : 青森県立郷土館・三内丸山遺跡センター(1件)、近隣の高等学校(1件)、社会奉仕活動団体(1件)、放課後等デイサービスセンター(1件)

	高校・特支計(73校)		高等学校(58校)		特別支援学校(15校)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
幼稚園、保育園、こども園、小・中学校	38校	52.1%	30校	51.7%	8校	53.3%
PTA、在校生の保護者	45校	61.6%	34校	58.6%	11校	73.3%
同窓会、卒業生、卒業生の保護者	34校	46.6%	29校	50.0%	5校	33.3%
地元企業	57校	78.1%	47校	81.0%	10校	66.7%
行政機関	46校	63.0%	40校	69.0%	6校	40.0%
地域団体、地元住民	47校	64.4%	37校	63.8%	10校	66.7%
大学、研究機関等	38校	52.1%	36校	62.1%	2校	13.3%
その他	7校	9.6%	3校	5.2%	4校	26.7%

3 貴校の地域学校協働活動の内容を具体的に記載してください。

(該当校回答)

【高等学校】

具体的内容
学習アシスト(実習・実験)、出前講義、職場訪問、進路講演、登下校の見守り
保育体験ボランティア、児童発達支援体験ボランティア、環境整備、職業体験(インターンシップ)、地域に関する学習活動、イベント補助参加、ゴミ拾いイベント参加
原別小学校に出向き、授業のサポートを行っている。(R2・R3年度は中止) 青森県立保健大学に行き、大学生とともに大学の講義を受けている。
地域に関する学習活動(地域活性化・まちづくり) 職業体験(職場訪問・職業講話) 学校行事(文化祭、運動会)等の補助 地域の行事・イベント・祭り
今別川河川敷清掃ボランティア活動、農園実習、郷土芸能荒馬の伝承、職業体験、文化祭の運営補助
出前授業 職業体験 本の読み聞かせ
地域に関する学習活動、出前授業、職業体験、進路講話、本の読み聞かせ、地域のボランティア活動への参画
職業体験(インターンシップ) 学校行事(空き缶壁画活動・文化祭) 学習アシスタント(保育園等への実習) 地域からの出前授業(地区健康推進協議会) 浪岡養護学校との交流(イベント・ボランティア活動)
学習アシスタント:青森県立第二高等養護学校の生徒へのものづくり支援 出前授業:特別非常勤講師(地元企業の技術者等)による授業 職業体験:地元企業等でのインターンシップ 職場訪問:事業所・工事現場等の見学 進路講話:卒業生による進路講話や企業説明等 地域の祭りへの参画:青森ねぶた祭への学校としての参加 地域の行事への参画:ねぶた部による金魚ねぶた制作体験等
商品開発・研究、出前授業、職業体験、進路講話、部活動指導補助、地域の祭りへの参画
各中学校、特別支援学校との連携会議 PTA役員による登校指導・巡回指導等、立佞武多運行への保護者協力 立佞武多への同窓生の製作協力 地元飲食店等に対する実態調査及びその発表 市役所等への取材及び懇談 地域ボランティア団体への生徒参加 大学からの出前講座
・文化祭において、保護者も模擬店を実施している。また、年2回登校時におけるあいさつ運動を保護者にも協力してもらって実施している。 ・進路ガイダンスにおいて、卒業生も講師として招き、実施している。 ・インターンシップにおいて、2学年の生徒が職業体験している。 ・文化祭において、地元の流し踊りを披露しているが、その際、地元の方を講師として招いている。 ・西北五地域で実施している合同の芸術教室が2年連続中止となり、今年度地域の方を招いて学校独自で「ふるさと芸術鑑賞」を計画している。
・地域に関する学習活動(地域活性化やまちづくりの施策についての講演会、総合的な探究の時間における地域の人や企業へのインタビュー調査) ・職場体験(インターンシップ、職場訪問、職業講話) ・商品開発・研究 ・地域の行事・祭り・ボランティア活動への参画 ・地域資源の紹介(縄文遺跡群ガイド) ・学習ボランティア(本校生徒が地域の小学校への学習指導アシスタント)
地域に関する学習活動、職業講話、進路講話、職業体験、ボランティア活動
・学校行事(中学校との合同体育祭、学校祭における大学やOBの協力、流し踊り保存会による指導等)に対する協力 ・職業体験(インターンシップ、進路講話) ・地域に関する学習活動(鯨高みらい塾、伝統文化の伝承) ・ボランティア活動への参画(小・中学校の運動会補助、白神ブナ植樹) ・地域活性化活動への参加(おやき販売、ふるさと納税返礼品製作、祭りへの参加) ・保護者による活動(挨拶運動、豚汁支援、流し踊り着付け)
インターンシップ、ジョブリサーチ(職場訪問)、進学・就職講座、出前授業、文化祭及び体育祭補助、朝のあいさつ運動、郷土学習(体験学習)、町イベントへのボランティア参加

<p>地域に関する学習活動(伝統文化の伝承等) 祭りへの参画(今年度は祭り中止となったため実施していない) 学校行事の補助</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する学習活動(地域活性化) ・地域資源の紹介 ・部活動指導補助(茶道部講師) ・地域のボランティア活動等への参画
<p>学習アシスタント(園児…毛豆の収穫・豆腐作り・花壇整備、小学生…田植え・稲刈り、中学生…チューター活動、高校…GLOBALG.A.P取得支援)、PTA活動(あいさつ運動、環境整備)、ボランティア活動(駅からハイキング・つがる地球村スイカ・メロンフェスティバル等)、GLOBALG.A.P.の公開審査、商工会議所(ビジネスプラングランプリ)、出前講座(豚肉解体・鉄筋施工等)、フードバンク活動、地域農業経営者の講演会</p>
<p>例年実施している活動(コロナ禍の前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習アシスタント(高大連携による課題研究発表会)→実施 ・職業体験(インターンシップ)→R2・3は中止 ・学校行事の補助(運動会、文化祭等)→実施(PTAの補助なし) ・地域の行事への参画(ごしよがわら産業まつり)→R2・3は中止 ・ボランティア活動等への参画(地域のゴミ拾い)→R2・3は中止
<p>地域に関する学習活動(探究活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市政、地元企業、伝統文化の分野から講師を招聘して講義・協議 ・地元大学教授による講義・協議 ・進路に関する学習活動(企業PRイベント) ・地元を含む企業について各ブースをローテーションしての職業研究
<p>地域に関する学習活動(地域活性化＝弘南電鉄イベントへの参加) 出前授業・進路講話・開校記念講演、登校時の挨拶運動、ねぶた制作時の巡回</p>
<p>【職業人講話(1年生・10月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内で活躍している方を8名程度招き、自分の興味や進路志望に近い分野の方の講話を聞き、進路選択の参考にする。 <p>【大学模擬講義(2年生・9月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の研究者を8名程度招き、自分の興味や進路志望に近い分野の研究者の模擬講義を聞き、進路選択の参考にする。大学での学びや研究とはどのようなものかを深くまで理解する。
<p>出前授業、職場訪問、職業講話、進路講話、学校行事の補助、登下校の見守り</p>
<p>地域イベントへの参加(花の植栽活動など)、農作業体験交流、学校行事の補助など</p>
<p>学習アシスタント(OBIによる溶接実技指導、地元企業による技能検定指導、ものづくりマイスター派遣制度による指導補助、地元大学生サポーター実習等)、地元企業による出前授業、職業体験(インターンシップ、職場訪問、職業講話等)、進路講話、学校行事(文化祭等でのPTA活動)の補助、PTAによる登下校の見守り、部活動指導補助(内容:弓道部、テニス部、新体操部、バレーボール部、バドミントン部、ボクシング部、硬式野球部の外部コーチ)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する学習活動(地域活性化) ・専門教科の技術指導等(特別非常勤講師活用) ・商品開発 ・出前授業 ・就業体験 ・防災講話
<p>課題研究(地元洋菓子店との商品開発、廃校利用等)、出前授業、進学・就職相談、進路講話、本の読み聞かせ、ボランティア活動、ねぶた運行等</p>
<ol style="list-style-type: none"> ①「総合的な探究の時間」において、地元企業や県内外の大学教授等による探究手法などの指導や講話を実施 ②理科系の課題研究発表会での大学教授等による指導・助言 ③医師を始めとした医療関係職の希望者のための病院内見学や体験の実施 ④本校卒業生で医学部在学学生による進路相談の実施
<p>NPOから講師を派遣(十和田・奥入瀬溪流ガイド養成講座)、DMOとの連携(講師派遣、地域振興に関わる諸活動)、十和田市役所との連携(講師派遣、地域振興に関わる諸活動)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間のテーマ設定等への助言(行政機関、大学研究機関等) ・部活動指導補助(地域住民への部活動コーチ依頼) ・出前授業(行政機関)
<p>地域に関する学習活動(地域活性化、まちづくり) 職業体験(インターンシップ) ボランティア活動(施設行事への参加、雪下ろし等)</p>

<p>学習アシスタント(授業の外部講師等)、地域に関する学習活動(アーカイブしちのへのとのロゲイニング運営等)、商品開発(株式会社 LOCO・SIKIとのコロッケ開発等)、進路講話(キャリアサポ等)、学校行事(行事での写真撮影等)、登下校の見守り(あいさつ運動等)、部活動指導補助(外部コーチ) ほか</p>
<p>総合的探究の時間における地域理解のための出前授業 地元大学における進路講話、高齢者施設職員による体験学習、部活動コーチ など</p>
<p>①総合的な探究の時間 本校ではビオトープ活動を行っており、北里大学の協力により始めた活動である。今年までに植樹祭等を地域住民、小中学生、六戸町役場、地元の産業等と協力して実施している。来年度閉校を迎えるにあたり、現在まとめの作業中である。 ②部活動指導補助 茶道や華道、弓道など専門的な部活動の指導をお願いしている。</p>
<p>学校行事(六高祭、体育祭、六耐レース等)、学校評議員会、六ヶ所地域小中高教科連携協議会、六ヶ所高等学校魅力化推進に係るワーキンググループ、東北大交流事業、エネルギー講演会・ワークショップ、高校生サイエンスツアー、高校生模擬議会、工場見学、村内企業研究会、インターンシップ、進路ガイダンス、企業・大学等見学会、登校指導、ビジネスマナー講座 等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する学習活動 (地域活性化・まちづくり、防災、地域の環境問題、商品開発・研究題、郷土芸能・伝統文化の伝承等) ・商品開発・研究、職業体験(インターンシップ、職場訪問、職業講話等) ・進路講話、学校行事(文化祭、体育祭等)の補助、登下校の見守り ・地域の祭りへの参画
<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する学習活動 (地域活性化・まちづくり、防災、地域の環境問題、商品開発・研究題、郷土芸能・伝統文化の伝承等) ・商品開発・研究、職業体験(インターンシップ、職場訪問、職業講話等) ・進路講話、学校行事(文化祭、体育祭等)の補助、登下校の見守り ・地域の祭りへの参画
<p>①地元の上北小学校と東小学校の児童を対象に、本校を会場にものづくり体験教室を実施した。 ②小学校の教育課程にプログラミングが導入されたことに伴い、本校電子科の生徒が東小学校の5～6年生に対してプログラミング教室を実施した。加えて、本校の電子科職員が東小学校の職員対象にプログラミング技術について、出前授業を行った。 ③本校の2学年を対象に各学科で卒業生を招聴して、職業講話を実施した。 ④地元企業と連携し、機械・エネルギー科は(株)ヨコサワ、(株)佐々木コーポレーション、電気科は県南環境(株)、上十三電気工事協会、電子科はNTT東日本東北(株)、建築科は(有)いわき建設にそれぞれ職場訪問を行い、工場見学、社員による技術指導を受けた。 ⑤機械・エネルギー科は地元の八戸工業大学と連携して、エネルギーに関する講話を受けた。</p>
<p>地域に関する学習活動(地域活性化・まちづくり) 商品開発・出前授業・職業体験(インターンシップ) 進路講話・地域のイベント・祭りへの参画等</p>
<p>環境整備(樹木伐採・草刈・花壇整備・体育館清掃) 部活動指導 各種講演会(地元団体・市役所・その他企業)</p>
<p>探究活動による商品開発、企業・大学との連携、市民会議ワークショップへの参加、産業社会と人間の時間による職場訪問や職業講話、福祉系列での介護実習に社会福祉事務所から講師を派遣、市民図書館での本の読み聞かせ、祭りや雪かきボランティア活動</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○本の読み聞かせ(青森大学と連携し、町内幼稚園で実施) ○大間町役場産業振興課・地域おこし協力隊と共同で、「インスタ映え大作戦」と称して町内にインスタポットを作る。 ○大間町役場職員をコーディネーターとして招き、地域おこしを考えるグループワークを実施。 ○町内美化活動「フラワーデー」に町内幼稚園児を招き、一緒にプランター花植を行う。
<p>地域企業との協同研究、出前授業、進学・就職相談会、職業体験(インターンシップ、職場訪問及び見学)、進路講話、学校図書館へのアシスト、学校行事(各種式典、文化祭、体育祭等)、地域の行事・ボランティア活動への参画。</p>
<p>地域に関する学習活動(地域巡検) 総合的な探究の時間における指導(地元大学等) 行政、企業、大学が主催する発表会等での発表 卒業生による講演会 周年行事等での補助 部活動の指導 ボランティア活動等への参画</p>

<p>学習アシスタント、地域に関する学習活動、職業体験、学校行事、登下校の見守り、地域の行事・イベント・祭り・ボランティア活動への参画</p>
<p>地域に関する学習指導(防災関係)、進学就職相談、進路講話、環境整備、学校行事(文化祭、運動会)への参加、登校時の挨拶運動、地域の行事・イベント・祭り・ボランティア活動への参加</p>
<p>・登下校の見守りを兼ねた挨拶運動(PTA) ・学習アシスタント(弘前大学ラボバス)</p>
<p>職業体験(インターンシップ) 学校行事(文化祭・体育祭)の補助 登下校の見守り(朝の一声運動) 本の読み聞かせ 部活動補助指導(コーチ) ボランティア活動への参画(五戸川清掃)</p>
<p>地域に関する学習活動(地域活性化・まちづくり・ゴミ等環境問題)、商品開発・研究、出前授業(大学・短大等、調理師)、進学・就職相談(地域で行われる相談会)、職業体験(インターンシップ)、進路講話、学校行事(体育祭、文化祭)の参加・補助、登校見守り(朝の一声あいさつ運動)、部活動指導補助(ソフトテニス部、放送部、茶華道部、吹奏楽部等)、地域の行事・イベント・祭り・ボランティア活動等への参画</p>
<p>・学習アシスタント(連携中学校での学習指導) ・地域に関する学習活動(地域活性化、郷土芸能・伝統文化の伝承) ・商品開発・研究(総合文化部による「うまいもん甲子園」出場、地域資源紹介) ・部活動指導補助(連携中学校との部活動連携) ・町幼稚園での夕涼み会補助(郷土芸能部)</p>
<p>・商品開発・製造 ・進学・就職相談 ・就業体験 ・学校行事補助 ・登校指導 ・地域行事・イベント等への参画 ・ボランティア活動</p>
<p>近隣小学校へのものづくり教室 地元企業へのインターンシップ、企業見学、職業講話 八戸工業大学との高大連携 各種学校及び企業からのものづくりに関する講習会</p>
<p>地域に関する学習活動(地域活性化・まちづくり・縄文世界遺産)、郷土芸能文化の伝承(えんぶり)、出前授業(アプリ開発講座)、高大連携(全商会計実務検定「財務会計論」集中講義、開発商品の広告・販売実践、IT業界の職業と今後の動向)、インターンシップ、外部講師による進路講話、分野別進路ガイダンス、面接ガイダンス、外部コーチによる部活動指導補助、ボランティア活動(縄文なべ祭り)、他人を思いやり命を大切にすることを育む対話集会、学校行事(各種式典、八商バザー、課題研究発表会)</p>
<p>・学校行事(文化祭)の補助 ・インターンシップ等</p>
<p>・職業体験(インターンシップ、企業訪問) ・職業人インタビュー、ライフプラン講話) ・地域に関する学習活動(田んぼアート田植え、稲刈り) ・課題研究での商品開発 ・農業体験 ・就職希望者の面接指導 ・学校行事の補助 ・企業、地域活動団体との交流会 ・ボランティア活動</p>
<p>・環境整備(地域緑地帯での植栽活動) ・避難所協働設営・合同避難訓練 ・職業体験(インターンシップ)</p>

【特別支援学校】

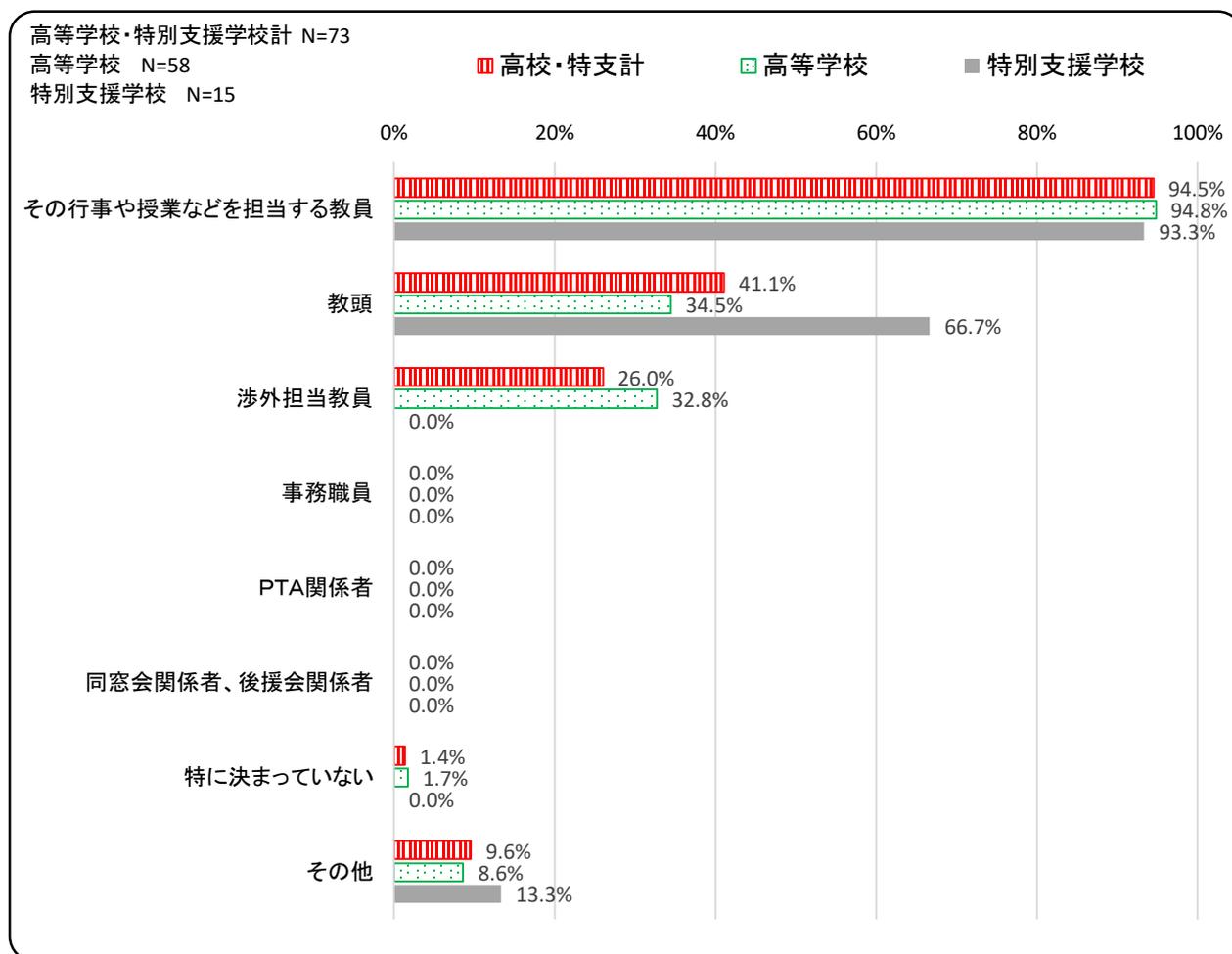
具体的内容
<p>職場体験(インターンシップ)、職場訪問、職業講話、学校行事の補助、出前授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校や専門学校等への出前授業 ・中学部生徒の職場見学、職場体験、職業講話 ・学校行事補助
<p>学校行事の補助、地域に関する学習活動、職業体験</p>
<p>地域に関する学習活動、学校行事への参加、避難訓練の援助、進路講話、環境整備(草刈)</p>
<p>米づくり(田植え、稲刈り、脱穀、収穫祭)</p>
<p>出前授業、産業現場等における実習、進路講話、学校行事の補助</p>
<p>地域に関する学習活動、商品開発・研究、職業体験、地域の行事への参加、作業製品の展示</p>
<p>職業体験(インターンシップ、職場訪問、職業講話) 進路講話 地域交流</p>
<p>学習アシスタント(外部講師)、商品開発・交流、出前授業、進学・就職相談、職業体験、現場実習、進路講話、環境整備、施設・設備のメンテナンス、学校行事の補助</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・職業体験(産業現場等における実習、施設等の体験学習) ・合同作品展(地元企業、他の特別支援学校と連携して開催)
<p>環境整備作業(落ち葉の清掃等)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備(鮫駅の清掃奉仕、鮫地区における清掃、オオハンゴンソウ駆除作業、鮫小学校の花壇の整備、鮫地区にある老人ホームの清掃、マリエントの館内清掃) ・外部講師の活用(パン作り講習、清掃技能講習、物流に関する講座、性に関する指導、身だしなみ講座、接客・マナー講座、八戸ダイム、ヴァンラーレ八戸によるスポーツ講習、郷土料理教室フリーズドライ) ・就職相談(卒業生を招いた進路講話、職場見学) ・職業体験(産行現場等における実習、職場体験実習) ・地域との連携(鮫地区におけるポッチャ交流大会の開催、鮫小学校児童に対するポッチャ講習、さめ保育園での読み聞かせ、クリスマスレクの運営、八戸工業大学との商品パッケージの開発、「かぶーにゃ」への商品納品、鮫小学校・寺院の駐車場等の除草、鮫町内会と合同でプランターの整備)
<p>居住地校交流</p> <p>異校種交流(地元小・中学校とのリモート交流会、地域の高校での農作業体験)</p> <p>地域に関する学習活動(焼物体験、農業体験)</p> <p>環境整備(運動会前の園庭整備)</p> <p>産業現場等における実習</p>
<p>地域に関する学習活動(郷土料理教室、清掃活動、スポーツ交流)</p> <p>職業体験(産業等現場における実習、職業講話)</p>
<p>地域に関する学習活動(防災、地域の祭り、地域の特産物等)、つがる市立図書館からの図書の貸出、学校行事の補助(換気や消毒、駐車場整理等)、環境整備(花壇整備等)、作品PR展示場所の提供、学校便り掲示場所の提供、小学校・中学校・高等学校・シルバークラブとの交流活動、雪かきボランティア活動、地域の清掃活動 等</p>

4 地域学校協働活動を行う際、連携先と学校のコーディネート(つなぎ役)は主にどなたが担当していますか。

(該当校回答)

□連携先とのコーディネート役

※複数が担当している場合は、多いものから2つ選択



「その他」の記載内容

高等学校(計5件) : 進路指導部教員(1件)、観光科教員(1件)、総合学科部教員(1件)
 高大連携先の大学教員(1件)、農場長(1件)
 特別支援学校(計2件) : 進路指導担当教員(1件)、学校運営協議会(1件)

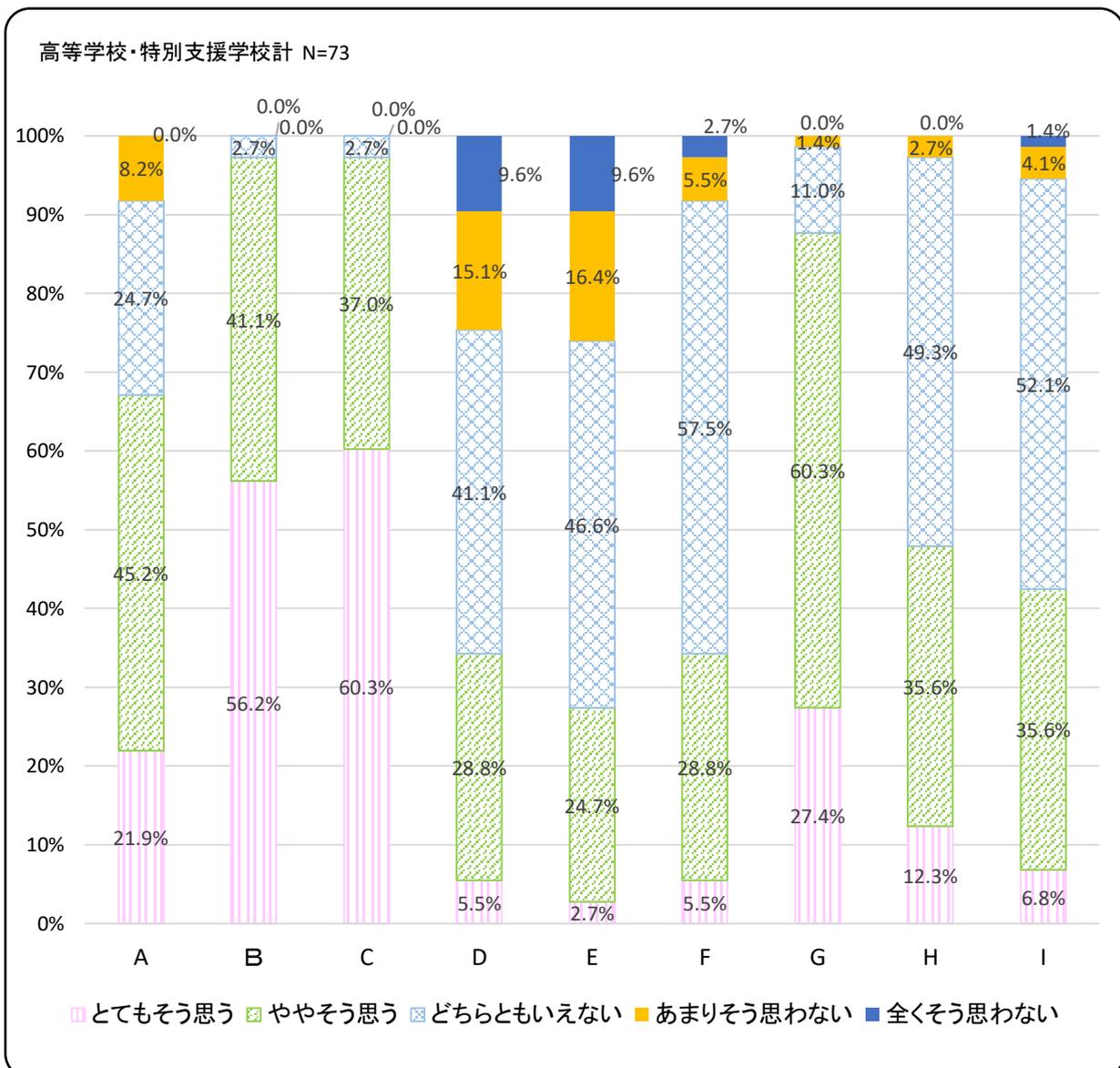
	高校・特支計(73校)		高等学校(58校)		特別支援学校(15校)	
教頭	30校	41.1%	20校	34.5%	10校	66.7%
渉外担当教員	19校	26.0%	19校	32.8%	0校	0.0%
その行事や授業などを担当する教員	69校	94.5%	55校	94.8%	14校	93.3%
事務職員	0校	0.0%	0校	0.0%	0校	0.0%
PTA関係者	0校	0.0%	0校	0.0%	0校	0.0%
同窓会関係者、後援会関係者	0校	0.0%	0校	0.0%	0校	0.0%
特に決まっていない	1校	1.4%	1校	1.7%	0校	0.0%
その他	7校	9.6%	5校	8.6%	2校	13.3%

5 地域学校協働活動を行うことで、学校として感じている効果についてお答えください。

(該当校回答)

- A 児童生徒が地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、学力の向上につながった。
- B 児童生徒が地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、コミュニケーション能力の向上につながった。
- C 児童生徒が地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、地域への理解・関心が深まった。
- D 地域住民が学校を支援することにより、教員が授業や生徒指導等に力を注ぐことができた。
- E 地域住民が学校を支援することにより、生徒指導上の課題の解決につながった。
- F 地域住民の生きがいや自己実現につながった。
- G 地域住民の学校への理解が深まった。
- H 地域住民が学校を支援することにより、地域の教育力が向上し、地域の活性化につながった。
- I 地域課題(地域活性化・まちづくり、防災、家庭教育支援、子育て環境整備、地域の環境問題、郷土芸能・伝統文化の伝承、国際化、高齢者の活躍促進、地域の健康増進、教育格差の解消等)の解決方法を地域住民が考えることにつながった。

□ 地域学校協働活動を行うことで、学校として感じている効果



A	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	58校	13校	22.4%	27校	46.6%	12校	20.7%	6校	10.3%	0校	0.0%
特支	15校	3校	20.0%	6校	40.0%	6校	40.0%	0校	0.0%	0校	0.0%	
全体	73校	16校	21.9%	33校	45.2%	18校	24.7%	6校	8.2%	0校	0.0%	

B	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	58校	32校	55.2%	24校	41.4%	2校	3.4%	0校	0.0%	0校	0.0%
特支	15校	9校	60.0%	6校	40.0%	0校	0.0%	0校	0.0%	0校	0.0%	
全体	73校	41校	56.2%	30校	41.1%	2校	2.7%	0校	0.0%	0校	0.0%	

C	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	58校	38校	65.5%	19校	32.8%	1校	1.7%	0校	0.0%	0校	0.0%
特支	15校	6校	40.0%	8校	53.3%	1校	6.7%	0校	0.0%	0校	0.0%	
全体	73校	44校	60.3%	27校	37.0%	2校	2.7%	0校	0.0%	0校	0.0%	

D	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	58校	4校	6.9%	16校	27.6%	22校	37.9%	9校	15.5%	7校	12.1%
特支	15校	0校	0.0%	5校	33.3%	8校	53.3%	2校	13.3%	0校	0.0%	
全体	73校	4校	5.5%	21校	28.8%	30校	41.1%	11校	15.1%	7校	9.6%	

E	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	58校	2校	3.4%	13校	22.4%	27校	46.6%	9校	15.5%	7校	12.1%
特支	15校	0校	0.0%	5校	33.3%	7校	46.7%	3校	20.0%	0校	0.0%	
全体	73校	2校	2.7%	18校	24.7%	34校	46.6%	12校	16.4%	7校	9.6%	

F	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	58校	4校	6.9%	18校	31.0%	31校	53.4%	3校	5.2%	2校	3.4%
特支	15校	0校	0.0%	3校	20.0%	11校	73.3%	1校	6.7%	0校	0.0%	
全体	73校	4校	5.5%	21校	28.8%	42校	57.5%	4校	5.5%	2校	2.7%	

G	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	58校	15校	25.9%	36校	62.1%	6校	10.3%	1校	1.7%	0校	0.0%
特支	15校	5校	33.3%	8校	53.3%	2校	13.3%	0校	0.0%	0校	0.0%	
全体	73校	20校	27.4%	44校	60.3%	8校	11.0%	1校	1.4%	0校	0.0%	

H	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	58校	8校	13.8%	22校	37.9%	26校	44.8%	2校	3.4%	0校	0.0%
特支	15校	1校	6.7%	4校	26.7%	10校	66.7%	0校	0.0%	0校	0.0%	
全体	73校	9校	12.3%	26校	35.6%	36校	49.3%	2校	2.7%	0校	0.0%	

I	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	58校	5校	8.6%	23校	39.7%	27校	46.6%	2校	3.4%	1校	1.7%
特支	15校	0校	0.0%	3校	20.0%	11校	73.3%	1校	6.7%	0校	0.0%	
全体	73校	5校	6.8%	26校	35.6%	38校	52.1%	3校	4.1%	1校	1.4%	

6 地域学校協働活動を実施する上で、学校として課題と感じていることについてお答えください。
(該当校回答)

□ 地域学校協働活動実施上、学校として感じている課題

※複数回答のため、重複あり

高等学校・特別支援学校計 N=73
 高等学校 N=58
 特別支援学校 N=15



「その他」の記載内容

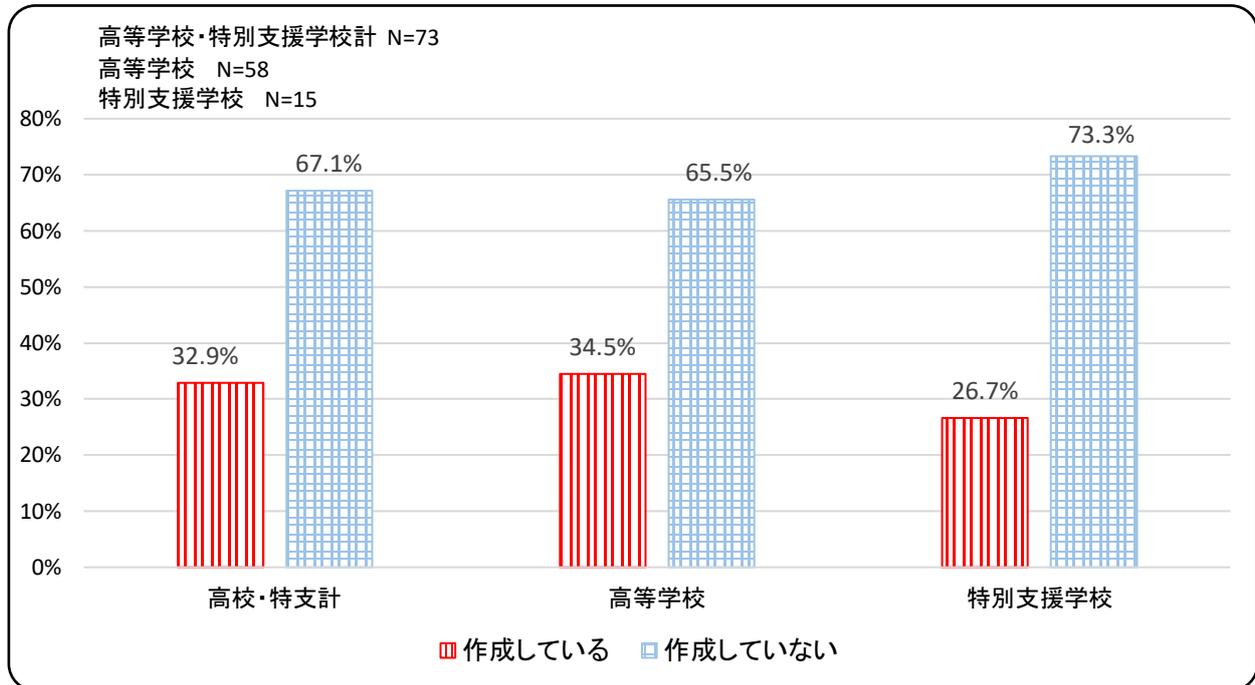
高等学校(計2件) :新型コロナウイルス感染症対策のため、積極的に地域と連携しにくい(2件)
 特別支援学校(計3件) :交通費、謝礼等、金銭面の課題(1件)、
 新型コロナウイルス感染症対策のため、積極的に地域と連携しにくい(1件)、
 コーディネーターの配置や予算面で、学校運営協議会と地域学校協働活動との一体化した取組が推進されることを期待します。(1件)

		高校・特支計 (73校)		高等学校 (58校)		特別支援学校 (15校)	
		校数	割合	校数	割合	校数	割合
ア	地域学校協働活動に対する学校・教職員の理解が不十分	15校	20.5%	9校	15.5%	6校	40.0%
イ	連絡調整等をする教職員の負担が大きい	54校	74.0%	48校	82.8%	6校	40.0%
ウ	学校内で地域学校協働活動として行うべき内容が明確になっていない	19校	26.0%	12校	20.7%	7校	46.7%
エ	連携先との連携が不十分	3校	4.1%	3校	5.2%	0校	0.0%
オ	連携先の情報が少ないため、毎年同じ内容や連携先になってしまう	15校	20.5%	10校	17.2%	5校	33.3%
カ	人事異動等で担当者が変わると連携先との関係や内容が途切れてしまう	14校	19.2%	13校	22.4%	1校	6.7%
キ	学校のニーズに合う連携先が分からない	12校	16.4%	6校	10.3%	6校	40.0%
ク	市町村(教育委員会を含む)との連携が不十分	8校	11.0%	4校	6.9%	4校	26.7%
ケ	県教育委員会の学校へのサポートが不十分	6校	8.2%	3校	5.2%	3校	20.0%
コ	学校と公民館等の関係施設との連携が不十分	7校	9.6%	2校	3.4%	5校	33.3%
サ	PTAや保護者の協力が不十分	5校	6.8%	4校	6.9%	1校	6.7%
シ	地域社会の理解が不十分	6校	8.2%	4校	6.9%	2校	13.3%
ス	その他	5校	6.8%	2校	3.4%	3校	20.0%
セ	課題や困っていることは特にない	8校	11.0%	6校	10.3%	2校	13.3%

7 学校が独自に、地域の方や企業等の協力(職場体験等)を受けるためのリスト(人財バンク)を作成していますか。

(該当校回答)

□地域の方や企業の支援(職場体験等)を受けるためのリスト(人財バンク)を作成している割合



	学校数	作成している		作成していない	
高校	58校	20校	34.5%	38校	65.5%
特支	15校	4校	26.7%	11校	73.3%
全体	73校	24校	32.9%	49校	67.1%

8 地域学校協働活動を行っていない(検討予定がない)理由を記載してください。

(該当校回答)

高等学校(該当校1校)

- ・本校では、今年度学校運営協議会を設置し、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動については、学校運営協議会で協議・推進していくこととしているため。

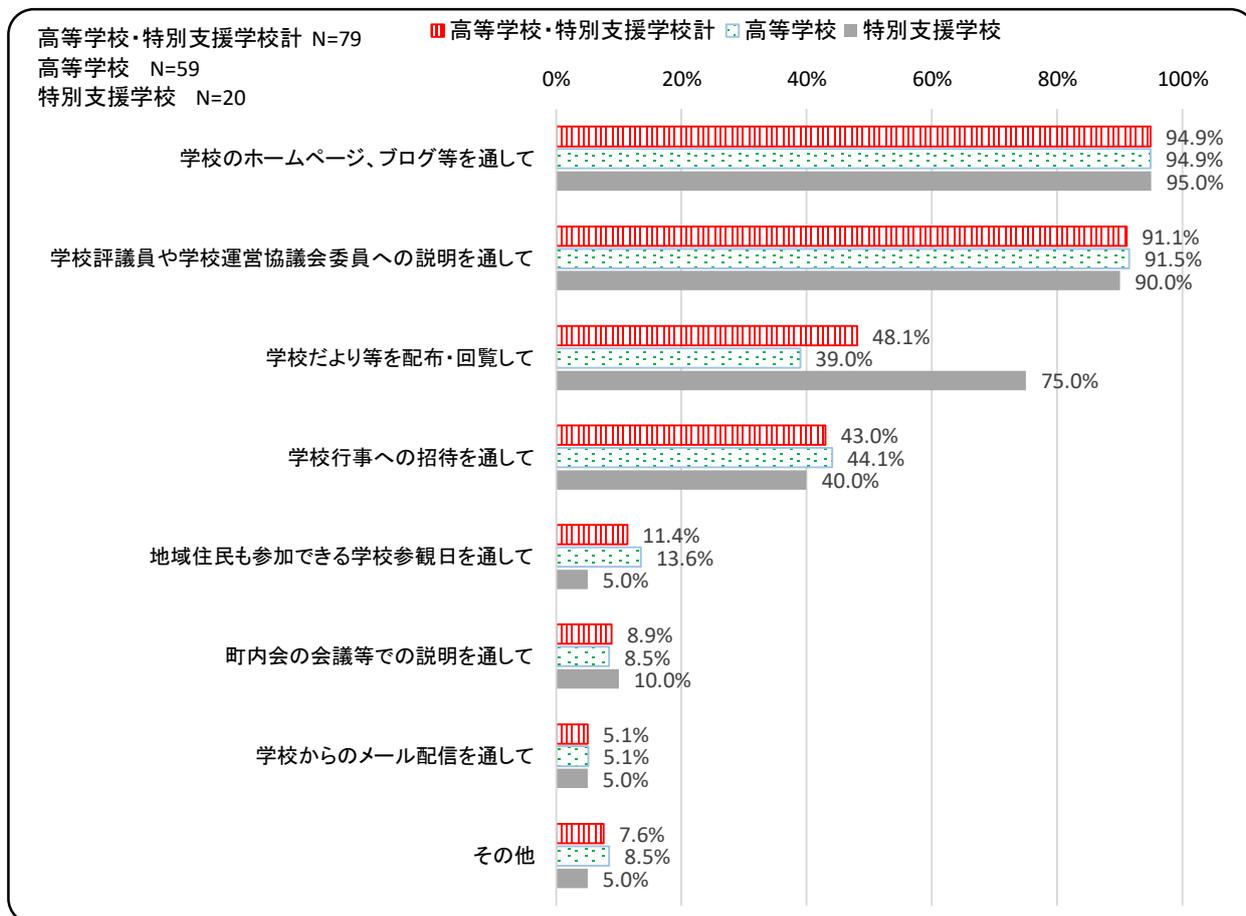
特別支援学校(該当校5校)

- ・コミュニティスクールが導入されてからの方がスムーズだと考えます。
- ・学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールとして取り組み始めたところであり、まだ、地域学校協働活動の検討には至っていない。
- ・令和3年度に学校運営協議会が設置され、学校と地域の連携の段階にあるため。
- ・児童生徒の実態(障害)として、学校全体では難しい。
- ・上十三地区は広域であり、特別支援学校として広域の地域住民や企業とどのように連携を図っていけばよいのか、現在のところ具体的なイメージがつかない。

9 地域住民(在籍する児童生徒の家庭以外)に対して、学校の教育活動全般の情報をどのように発信していますか。

(全校回答)

※複数回答のため、重複あり



「その他」の記載内容

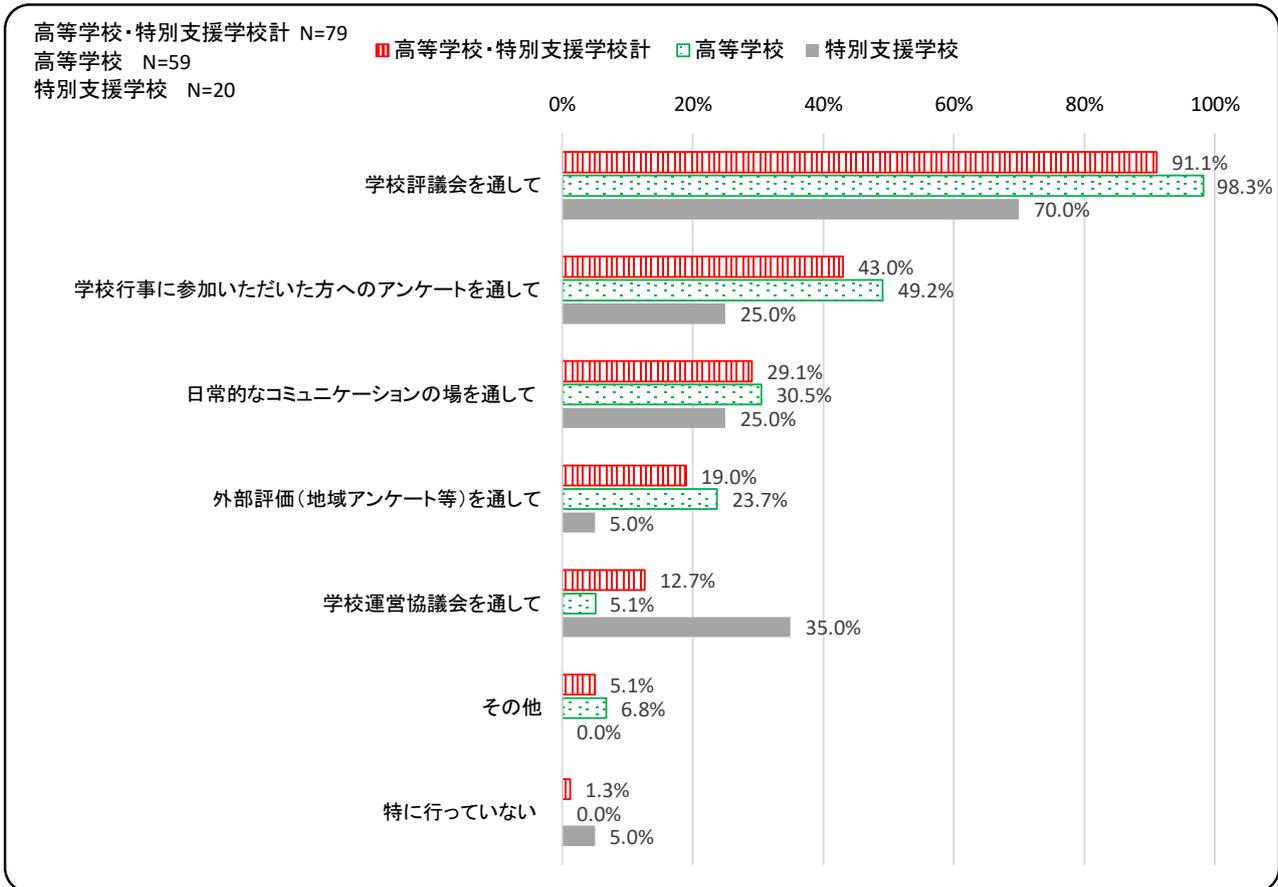
高等学校(計5件)

:自治体の広報誌に毎月学校情報を掲載(2件)、
 町の広報誌やSNS等を通じて(1件)、
 町のケーブルテレビを活用した情報発信(1件)、
 新聞やテレビ等のメディアで紹介(1件)

	高校・特支計(79校)		高等学校(59校)		特別支援学校(20校)	
	校数	割合	校数	割合	校数	割合
ア 学校だより等を配布・回覧して	38校	48.1%	23校	39.0%	15校	75.0%
イ 学校行事への招待を通して	34校	43.0%	26校	44.1%	8校	40.0%
ウ 地域住民も参加できる学校参観日を通して	9校	11.4%	8校	13.6%	1校	5.0%
エ 学校評議員や学校運営協議会委員への説明を通して	72校	91.1%	54校	91.5%	18校	90.0%
オ 町内会の会議等での説明を通して	7校	8.9%	5校	8.5%	2校	10.0%
カ 学校のホームページ、ブログ等を通して	75校	94.9%	56校	94.9%	19校	95.0%
キ 学校からのメール配信を通して	4校	5.1%	3校	5.1%	1校	5.0%
ク その他	6校	7.6%	5校	8.5%	1校	5.0%

10 地域住民(在籍する児童生徒の家庭以外)の要望や意見を、どのように学校の運営に取り入れていますか。
(全校回答)

※複数回答のため、重複あり



「その他」の記載内容

高等学校(計5件)

:自治体の広報誌に毎月学校情報を掲載(2件)、
 町の広報誌やSNS等を通じて(1件)、
 町のケーブルテレビを活用した情報発信(1件)、
 新聞やテレビ等のメディアで紹介(1件)

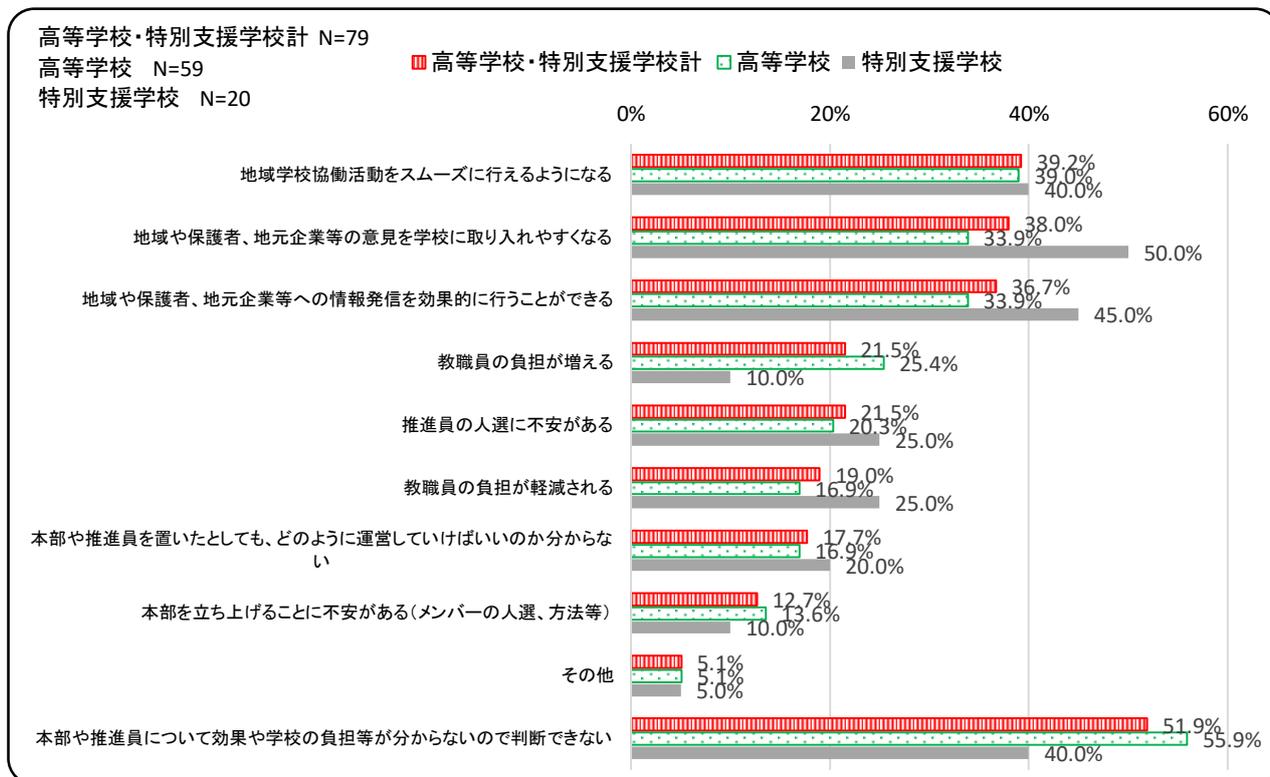
特別支援学校(計1件) :地域で毎月発行する広報(公民館便り)に学校の情報を掲載(1件)

		高校・特支計(79校)		高等学校(59校)		特別支援学校(20校)	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
ア	外部評価(地域アンケート等)を通して	15校	19.0%	14校	23.7%	1校	5.0%
イ	学校運営協議会を通して	10校	12.7%	3校	5.1%	7校	35.0%
ウ	学校評議会を通して	72校	91.1%	58校	98.3%	14校	70.0%
エ	学校行事に参加いただいた方へのアンケートを通して	34校	43.0%	29校	49.2%	5校	25.0%
オ	日常的なコミュニケーションの場を通して	23校	29.1%	18校	30.5%	5校	25.0%
カ	その他	4校	5.1%	4校	6.8%	0校	0.0%
キ	特に行ってない	1校	1.3%	0校	0.0%	1校	5.0%

11 地域学校協働本部(以下、「本部」という。)や地域学校協働活動推進員(以下、「推進員」という。)を自校に置くことについて、どのように考えますか。

(全校回答)

※複数回答のため、重複あり



「その他」の記載内容

高等学校(計3件)

: 来年度末に閉校を迎えるため、新たに組織づくりや人員配置をするには負担が大きく、現状の連携を維持・充実させることが望ましいと考える(1件)、
 これまでも地域と十分に連携できていたので、新たに本部や推進員を自校に置く必要がない(1件)、
 本校の教育目標に沿って地域との協働を行っている。校内の教員間で十分に連携がとれているため。(1件)、

特別支援学校(計1件)

: 本校は3学部、2校舎に分かれており、地域も離れ、活動の種類も多岐にわたるため、本部を整備してもまとめていくことが難しいと考える。(1件)

		高校・特支計(79校)		高等学校(59校)		特別支援学校(20校)	
ア	地域学校協働活動をスムーズに行えるようになる	31校	39.2%	23校	39.0%	8校	40.0%
イ	地域や保護者、地元企業等への情報発信を効果的に行うことができる	29校	36.7%	20校	33.9%	9校	45.0%
ウ	地域や保護者、地元企業等の意見を学校に取り入れやすくなる	30校	38.0%	20校	33.9%	10校	50.0%
エ	教職員の負担が軽減される	15校	19.0%	10校	16.9%	5校	25.0%
オ	教職員の負担が増える	17校	21.5%	15校	25.4%	2校	10.0%
カ	本部を立ち上げることに不安がある(メンバーの人選、方法等)	10校	12.7%	8校	13.6%	2校	10.0%
キ	推進員の人選に不安がある	17校	21.5%	12校	20.3%	5校	25.0%
ク	本部や推進員を置いたとしても、どのように運営していけばいいのか分からない	14校	17.7%	10校	16.9%	4校	20.0%
ケ	その他	4校	5.1%	3校	5.1%	1校	5.0%
コ	本部や推進員について効果や学校の負担等が分からないので判断できない	41校	51.9%	33校	55.9%	8校	40.0%

12 学校と地域の連携に関して、御意見がありましたら御記入ください。

(全校回答・自由記述)

【高等学校】

- ・カリキュラムマネジメントの3つの側面の一つである、教育課程の実施に必要な人的または物的な体制を確保するために地域との連携、つまりコミュニティスクールの推進が必要であるが、教員の理解が不十分だと考える。現在、コミュニティスクールとして活動している各校の実践について情報提供していただけないか。
- ・学校と地域の連携は今後欠かせないものと考えているので、積極的に連携を図っていきたく考えている。
- ・一部の教員や生徒のみが関わっているケースが多いため学校全体で取り組んだ方が高い効果が得られる。
- ・本校は、地域の農業高校として、行政、民間企業及び地域団体から連携の依頼があれば前向きに検討している。学校と地域が連携することで、生徒は社会と接する機会を持つことができる。学校生活に不安を感じている生徒が、学校外でやりがいを見つけれることで充実感を得られ、その事で将来を考えるきっかけにもなっている。様々な場面で大人と接することで、学校では学べないライフキャリアを学ぶことができる。本校では、外部講師のよる授業や学校外での活動を積極的に行い、社会に開かれた教育課程を実践している。
- ・学校と地域双方の理解を温度差無く高めていく方法(事例・ヒント)があれば伺いたい。
- ・本校生徒の成長に必要な、「内容・回数・時期」などを見極めることが大事である。教員の負担が増えずに、生徒の活動が活性化するなどのメリットがあれば、価値のある活動になるのではないか。
- ・学校と地域の連携は重要であることは十分に理解しているが、学校評議員会制度、学校関係者評価、地域学校協働活動、学校運営協議会等、実施または設置の目的が近い取組が様々ある。これを一本化することで学校の負担は軽減されるのではないか。
- ・学校外の方の協力を得ることは良いことだと思うが、新型コロナの影響により、学校行事等についても外部への公開等がうまくできていない。オンラインを利用した公開法もあるが、担当する職員の負担が大きくなっている。学校内の業務内容を見直していかないと体制作りが上手く行かないと思う。
- ・地域の人材等の資源を発掘することの難しさがある。ある程度、軌道にのってしまえば、生徒の実情を見据えながら、資源の新規開拓・追加をすることで、柔軟に運営することができる。地域住民との触れあい・交流から地域の資源を発見することができる。
- ・地域に対する学習活動を推進するために、県にコーディネーターを置くことを検討してほしい。高等学校と地域をつなぐ仕組みの創設を望む。
- ・生徒が活躍できる場が大幅に増え、学校の特色ある取組として学校の魅力化にもつながることなどが大いに期待できる。
- ・学校と地域の連携は不可欠で重要なことである。これまでも多くの行事、企画について御協力をいただいている。今後も多くの活動を協働できるように計画を立てたいと考えている。しかし、アンケートにあるような地域学校協働本部のような組織化は望まない。役割等をはっきりさせるなどの利点もあるだろうが、仕事が増え負担増のリスクも感じられる。現在の所、本校では協力体制等充分に行われているので、この体制を維持したい。
- ・これから協力企業リストを作成する予定となっているが、コーディネーター的な協力者がいてくれると心強い。
- ・「郷土に誇りを持てる生徒」を育むためには、生徒たちの地域理解を図ることが不可欠であり、そのためには地域との連携は欠かすことができないと考える。学校のカリキュラムの中で協力を仰ぐだけでなく、地域の祭事・イベント等に積極的に参加することで、地域住民たちの理解を得ることができると考える。しかし、学校が所在する地域の出身者だけで教員が構成されることはないので、コーディネートしていただける人材が求められると思う。
- ・様々な問題や課題を抱える学校と地域が連携することで、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという理念を構築できると考える。また、教職員の業務改善の観点からも学校と地域の連携は効果的であると考えている。

- ・ 学校・町・近隣町村・小中学校・県教育庁関係者による「三戸高等学校活性化協議会」を令和4年1月から定期開催する。
- ・ 本校は、地域のご協力のもと様々な活動を実施できた。特に郷土芸能部の活動は地域の方々のご支援がなければ、ここまで続けてこれなかったと思う。よって、学校と地域の連携は大切にしなければならないと考える。
- ・ 新型コロナウイルス感染予防のため、従来であれば、地域の方々にご案内していた文化祭や授業公開等はお知らせすることができなかった。今後、コロナが落ち着けばもう少し活発に行うことができるようになると思われる。
- ・ これまでの教育活動の中で、地域や地元企業と連携した活動が進んでいる。それについて地域学校協働活動として捉えているが、推進員や本部の在り方、参画にあたって等、具体的な体制づくりについて今後どのように進めるべきなのか不安要素が多い。
- ・ 本校は午前・午後・夜間の3部制の定時制と通信制の併置校のため、学校行事以外の教育活動に地域の方々の協力を得ることは難しい面があり、地域との連携のためには本校の仕組みを理解してもらわなければならない。また、学校側としても定時制3部・通信制それぞれの生徒が教育的効果が得られるための工夫が必要である。

【特別支援学校】

- ・ 本校小学部の学校間交流先だった小学校が閉校し、それ以降、次の交流校が見つかっていない。柏崎小学校と第三中学校に共同で配置されている地域学校協働活動推進員の方に相談させていただきたい。
- ・ 本校がある柏崎地区には、柏崎小学校と第三中学校に共同で地域学校協働活動推進員がコーディネーターとして配置されている。交流及び共同学習を実施しているこの学校のコーディネーターを本校でも活用できると、本校の地域学校協働活動が広がっていくと期待している。そこで県教委と市教委との連携を図ってほしい。また、地域学校協働本部とすでに本校に設置されている学校運営協議会の組織的な在り方についてご助言いただきたい。
- ・ これからの子どもたちには、次世代を切り開く力を育む教育が必要であり、その場は学校だけでなく、家庭や地域社会との連携で育むことが大切である。多様な人々と関わり、様々な経験を重ねていく中で育まれるものであり、地域社会とのつながりや信頼できる大人との多くの関わりを通して、心豊かにたくましく成長するものだと考える。
- ・ 地域学校協働活動推進員を委嘱されたが、本校の現状では、教頭がほぼ窓口となり、各学部の担当や進路指導主事等が進めることが多く、推進員を教諭が担っても役割は果たしにくいと考える。費用面ではドリカム推進事業やPTA予算から捻出していることが多いが、確実性や使用額に限度があることから、現状以上に推進していくことは難しいと思われる。
- ・ 地域資源と積極的に連携し、児童生徒の学び、成長に活用したいが、昨年度、今年度と、新型コロナウイルス感染症対策のため、あまり連携ができていない。
- ・ 特別支援学校と小・中・高等学校の教育課程が異なるため、実施日時の調整が難しい。各校のねらいやニーズを共通理解することが重要である。
- ・ 地域との連携は、地域に開かれた学校づくりを進めるにおいてとても重要なことであるため、メンバーの人選などクリアしなければならない課題はあるが推進していきたい。
- ・ 県立学校においては、生徒の通学は広範囲に及ぶことから、地域のとらえ方がとても難しく、地域学校協働本部を置き、推進員を任命し、活動を軌道にのせるには時間がかかると考えられます。ただし、地域学校協働本部が設置されることで活動がより充実していくと思われることから、そのための体制づくりを進めていければと思っています。